



平成22年11月19日

第12号

宮城教育大学ESD・RCE推進会議から、学内外のESD・RCEの取り組みやニュースをお知らせします。

I. これまでのESD 関連事業報告

1. 宮城教育大学舞踊発表会～地域の伝統文化と教育～（9月23日・木（祝日））

仙台市若林区文化センターにて、「宮城教育大学舞踊発表会～地域の伝統文化と教育～」を開催しました。この発表会は、地域の伝統文化（民俗芸能・舞踊）を教育に取り入れている学校が集まって、取り組みについての実践内容と成果の発表（今回は、加美町立中新田幼稚園「火伏せの虎舞」・石巻市立中津山第二小学校「はねこ踊り」・気仙沼市立月立小学校「早稲谷鹿踊り」・仙台市立湯元小学校「湯元田植踊」・石巻市立雄勝中学校「雄勝法印神楽」・仙台市立三条中学校「通町熊野神社神楽」・本学「さんさ踊り」の七校）をするもので、文部科学省・特別経費「東北の地域遺産を活用した地域と世界を結ぶ持続発展教育の推進」プロジェクトによって実施しました。この活動を通して、「地域の文化遺産を教育に取り入れ、子どもたちがそれを継承することにより地域を活性化し、持続可能な地域を創ることに貢献する」という持続発展教育（ESD）の理念と、ユネスコの「世界遺産・地域遺産」教育推進の理念を、地域において推進したいと考えています。



2. COP10パートナーシップ事業 語ろう！東北の生物多様性（9月27日・月）

東北大学大学院農学研究科冬木先生の司会で、本学島野先生、NPO 法人たんぼ岩瀬理事長による「生物多様性・COP10 について」の講演と、秋田県秋田地域振興局（八郎湖の自然再生に向けた取り組み）、仙台広域圏 RCE（NPO 法人水守の郷・七ヶ宿）海藤さんの大自然と文化の共生する七ヶ宿から持続可能な未来づくりなど「COP10 ブース出展者による事例紹介」があった。



3. 国連大学 RCE 関連

世界 RCE ニュースへの RCE 仙台広域圏の掲載：

①国連大学 RCE (Regional Centres of Expertise) は、ESD の拠点形成のため 2010 年 3 月現在世界中に 75 のサイトをもつまでになりました。2010 年 3 月に発行された 12 号 RCE ニュース(RCE Bulletin) は、これらの世界中の ESD 拠点 RCE に配布されます。ここに RCE 仙台広域圏の話題を投稿し掲載されました。「題名：RCE Greater Sendai: ESD in wetlands and rice paddies. 内容要約 2010 年は、国際生物多様性年であり日本で、生物多様性締約国会議 (CBD-COP10) が開催されたが、RCE 仙台広域圏は、これに関して大崎田尻地域で活動を行っている。この地域は、ラムサール条約に認定された湿地と水田によって特徴付けられる。毎年、十万羽のマガンが飛来し、地域の人々は生き物との共生を心がけている。2010 年 2 月 14 日に、「ラムサールフェスティバル 2010」が大崎市で開催され湿地や水田に関する発表を行った。韓国のチャンウオンの市民も招待された。ここでは、田尻中学校や、田尻さくら高校の生徒の ESD 活動に関する発表もあった。これらの生徒だけで開催される「KODOMO ラムサール」という日本国内の湿地を中心に活動している小中高校生のおつまりが、6 月に開催されました。

名古屋生物多様性 COP10 でのアピール

②名古屋で開催された生物多様性締約国会議 (CBD-COP10) で、RCE 仙台広域圏として参加、他の 5 つの国内 RCE とともに、ブースを設置、市民や、締約国会議参加者に、ESD の重要性や成果をアピールしました。まず、市民には、10 月 20 日に以下の 2 つのフォーラムを通して ESD および RCE としての ESD 拠点の形成の重要性と成果をアピールしました。

(1) 生物多様性交流フェア・フォーラム<大会場> 10 月 20 日 15:30~17:30) フォーラム「生物多様性と持続可能な発展のための教育 (ESD) ~国連大学 ESD 地域拠点ネットワーク (RCE) の世界戦略~」
(担当：島野智之 (環境教育実践研究センター))

(2) 生物多様性交流フェア・フォーラム<小会場> 10 月 20 日 18:00~19:30
シンポジウム「生物多様性と持続可能な発展のための教育 (ESD) ~国連「ESD の 10 年」最終年 2014 年に向けた連携のあり方を探る~」(担当：島野智之 (環境教育実践研究センター)) また、世界各国からの代表である生物多様性締約国会議 (CBD-COP10) 本会議参加者には、以下を通して ESD の重要性と成果をアピールしました。

(3) 本会議サイドイベント (会場：First Floor of Building 2) 10 月 25 日 13:15 - 15:00 Education for Sustainable Development (ESD) and Biological Diversity -How ESD can contribute to CBD? Date: (ESD と生物多様性- どのように ESD は生物多様性に貢献できるのか?) (担当：島野智之 (環境教育実践研究センター))

③生物多様性保全への貢献として、世界中に配布されるファクトシートに、RCE 仙台広域圏の活動が紹介されました。

世界中の RCE の ESD 活動が、生物多様性に貢献していることをアピールするために世界中に配布されるファクトシートに、世界中から 6 事例のひとつとして、RCE 仙台広域圏の活動が紹介されました。

「要約：RCE 仙台広域圏のラムサール登録湿地における保全。日本の RCE 仙台広域圏は域内生態系保全のため協働を進めてきました。一例として、大崎市田尻地域にあるラムサール登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」は、豊かな生物多様性を地域の市民の手がささえています。水田や湿地での知識や理解、スキルを地元市民や学校児童が学びボランティア活動を行っています。毎年、大崎市で開催されるラムサールフェスティバルは、国内外の市民だけではなく、生徒が生物多様性に関して調べ知識を得る機会になっています。

(担当・文責：島野智之 (環境教育実践研究センター))

4. 仙台広域圏COP10関連学習会（10月14日・木）

仙台広域圏ESD・RCE拡大運営委員会に先立ち、本学島野智之准教授「COP10での報告について」、「気仙沼での活動」および水守の郷・七ヶ宿海藤理事長「七ヶ宿の活動」による学習会「生物多様性を考える」を開催しました。

名古屋開催のCOP10には、仙台広域圏としてのブース展示のほか、大崎田尻地域と仙台地域（FEEL Sendai）が別途ブース展示を行いました。



島野先生



海藤氏



5. 第2回ユネスコスクール全国大会関連事業（10月29日・金～31日・日）

第2回ユネスコスクール全国大会が宮城教育大学において開催されました。

10月30日（土）に、文部科学省・日本ユネスコ国内委員会主催の標記全国大会が宮城教育大学において開催されました。また、全国大会開催に伴い、ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）主催のサイドイベント（29日・金）、ダブルネット推進ワークショップ（31日・日）を開催しました。

○10月29日（金） サイドイベント・公開授業「防災教育」

文部科学省藤嶋信夫国際統括官をお迎えし、宮城教育大学附属小学校にて開催しました。

13:00からの開会式に続き、附属小学校5年生「総合的な学習の時間」参観後、「防災教育パネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、附属小学校いずみタイム研究部会・高橋心教諭、気仙沼市立小原木小学校尾形俊明教諭、気仙沼市立階上中学校・菊田裕幸教諭、大河原町立金ヶ瀬中学校・高橋教義校長が取り組みを発表し、国立教育政策研究所五島統括研究官からコメントを頂き、熱心な質疑応答が行われました。



附属小学校「総合的な学習の時間」



附属小学校「防災教育パネルディスカッション」

○10月30日(土) 第2回ユネスコスクール全国大会

銭谷眞美東京国立博物館長をお迎えし、「ESDで育てる“生きる力”」の基調講演が行われた後、午後は、ユネスコスクールの教職員による課題別研究協議会「ユネスコスクールとしての実践を深めるために」がありました。この協議会では、①ESDの浸透②構内連携③教科とのリンク④活動の継続性⑤環境整備⑥地域連携⑦学校間交流)に分かれ討議を行いました。引き続きパネルディスカッション「ESDで育てる“生きる力”」では、国立教育政策研究所・角屋重樹先生、金沢市教育委員会・上林雅彦部長、気仙沼市立大谷小学校・藤村俊美校長、広島県立広島中学・高校・藤本秀穂教頭により、実践発表と研究発表およびESDで養われる資質・能力を巡っての討論が行われました。 全国から330人の関係者が参加しました。



銭谷眞美東京国立博物館長



パネルディスカッション

○10月31日(日) ダブルネット推進ワークショップ

ASPUnivNet と ASPNet によるダブルネット推進ワークショップを開催しました。国内ユネスコスクール加盟校が東アジア・東南アジア地域のユネスコスクールと交流するため、今回は「お米プロジェクト」を共通のテーマとし、「お米作りと生物多様性」・「お米作りと体験学習」・「お米作りと食文化・食育」・「お米作りと伝統芸能」の4つの分科会に分かれ、参加校の実践発表に続き、各会場では活発な質疑応答が行われました。午後の部は、国連大学よりESDの地域拠点に認定されている、仙台広域圏ESD・RCE学びあいセミナーと位置づけ、一般公開としました。基調講演では、仙台広域圏メンバー「オリザの環」を連載企画した、河北新報社代表取締役・一力雅彦社長の「お米が結ぶ 地域と世界」の講演に、会場から時間をオーバーしての質問がありました。また、タイ・韓国・マダガスカルより海外のESD活動やユネスコスクールの現状報告と、10月29日開催のサイドイベント「防災教育」と各分科会からの報告がありました。今後、ユネスコスクールに参加することでESDが広まり、今回のワークショップを通して各校で取り組まれている実践事例を共有し、ユネスコスクール加盟校の質の向上につながることを期待します。



「お米作りと生物多様性」分科会



記念講演「お米が結ぶ 地域と世界」